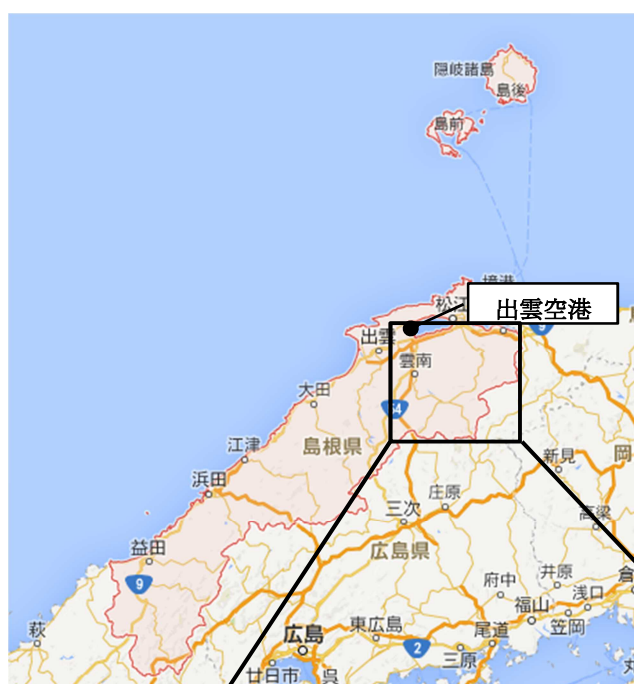


① 申請者	◎雲南市、安来市、 奥出雲町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
いずものくに 出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>日本古来の鉄づくり「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では、今日もなお世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けています。たたら製鉄は、優れた鉄の生産だけでなく、原料砂鉄の採取跡地を広大な稲田に再生し、燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという、人と自然とが共生する持続可能な産業として日本社会を支えてきました。また、鉄の流通は全国各地の文物をもたらし、都のような華やかな地域文化をも育みました。</p> <p>今もこの地は、神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の物語が終わることなく紡がれています。</p>			
			
今も舞い上がり続ける「たたら製鉄」の炎		たたら製鉄が生み出した独特な棚田の景観	
			
全国各地の民謡の影響を受け生まれた「民謡安来節」		たたら製鉄がモチーフともいわれるヤマタノオロチ退治神話を伝える神楽の舞	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	雲南市役所 産業振興部 商工観光課 主幹 鈴木 佑里子		
電 話	0854-40-1054	FAX	0854-40-1059
E-mail	suzuki-yuriko@city.unnan.shimane.jp		
住 所	島根県雲南市木次町里方 521-1		

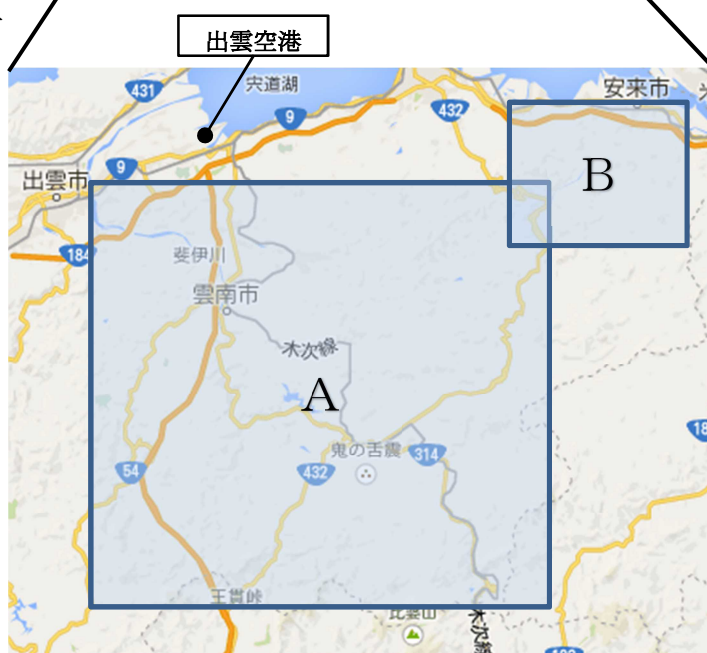
市町村の位置図（地図等）

雲南市・安来市・奥出雲町は、島根県の東部に位置し、鳥取県と広島県に接する。中国山地に源を発した斐伊川・飯梨川などの流域で、大半が山間地である。それぞれの中心部への鉄道でのアクセスは、安来市は JR 山陰本線安来駅、雲南市は JR 木次線木次駅、奥出雲町は JR 木次線出雲三成駅及び横田駅が最寄りとなっている。また、自動車道でのアクセスは、雲南市は中国横断自動車道尾道松江線の三刀屋木次 IC、安来市は山陰自動車道安来 IC、奥出雲町は中国横断自動車道尾道松江線の吉田掛合 IC 及び高野 IC となっている。また、出雲空港から 3 市町の中心部までは 25 分から 50 分を要する。

島根県



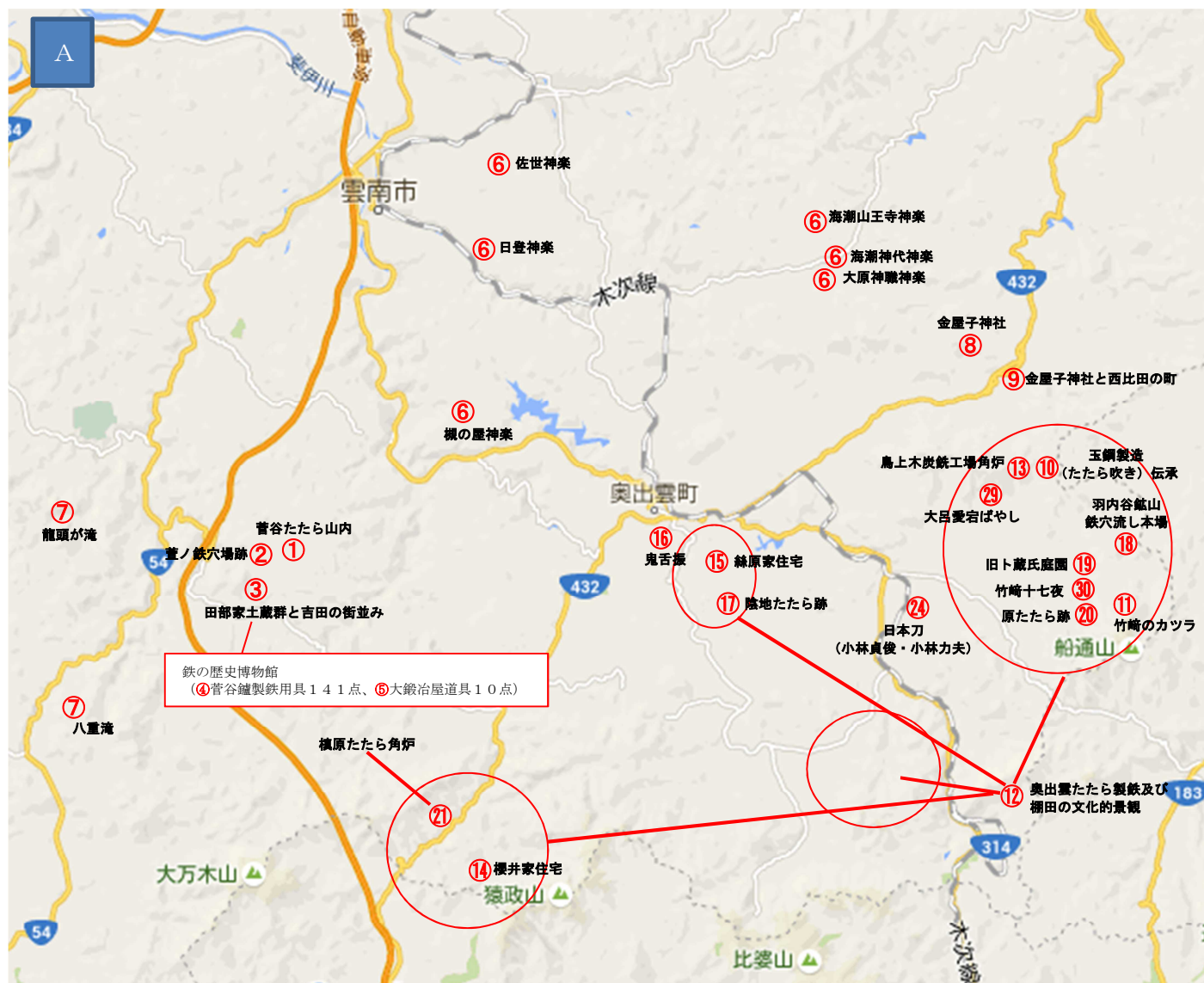
雲南市、安来市、奥出雲町



構成文化財の位置図（地図等）」

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す

（様式 2 - 1 の番号に対応させること）





ストーリー 「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」

たたら製鉄の幕開け

島根県東部の出雲地方では、約1400年前から「たたら製鉄」と呼ばれる砂鉄と木炭を用いる鉄づくりが盛んに行われていました。天平5（733）年に書かれた『出雲国風土記』には、「この地で生産される鉄は堅く、いろいろな道具をつくるのに最適である」と、生産される鉄の優秀性が語られています。そして、江戸時代後半から明治にかけての最盛期には、全国のおよそ8割の鉄が、当地を中心とした中国山地の麓でつくられていました。

なかでも奥出雲地域には、たたら製鉄の原料となる良質な砂鉄を含む花崗岩（真砂土）が広く分布し、燃料の木炭を得るための森林も広大であったため、これらの資源を求めて製鉄技術者が多数集まってきました。この歴史を象徴するのが、鉄づくりの神「金屋子神」が白鷺に乗ってカツラの木に舞い降り、製鉄の技術を受けたとする金屋子神話です。今日、「金屋子神社」の総本社がこの地に鎮座し、鉄づくり発祥の地として篤く信仰されています。

たたら製鉄を支える人々と環境

奥出雲を訪れると、豊かな山林に抱かれた広大な棚田が点在し、その棚田の中にポツンポツンと“こぶ”のような小山がある光景に気が付きます。これは山を切り崩して土砂を水路に流しながら砂鉄を採取する「鉄穴流し」が行われた際に、鎮守の杜や墓地など神聖な場所を削らずに残したものです。鉄づくりには、想像を絶する多くの山を切り崩すほど大量の砂鉄が必要でしたが、その跡地はそのまま放置されることなく、鉄穴流しで使用した溜め池や水路を利用して計画的に農地に再生し、1km以上も続く棚田の景観を至る所に生みだしました。さらに、砂鉄を採取した残りの土の大半は下流域に堆積して、現在の出雲平野や安来平野など、広大な穀倉地帯を形成したのです。また、かつて木炭を焼くための山林は大規模に伐採されましたが、永続的に炭焼きができるように約30年周期の輪伐を繰り返し、循環利用してきました。この結果、奥出雲の山々にはブナ林をはじめとする自然豊かな森が多く残り、四季折々の彩を見せて人々の心を癒してくれています。

鉄穴流しで採取した砂鉄と山林で焼いた木炭は、「山内」と呼ばれる製鉄工場に集められました。山内は、たたら製鉄の従事者だけで構成される100人から200人規模の小さな鉱山町で、カツラの木をご神木として金屋子神を祀り、住居と製鉄施設を構えていました。鉄師（たたら経営者）は、町から離れた清流沿いの谷あい独立した山内集落をつくることによって、その技術を継承し、たたら製鉄を守ってきました。

このように、たたら製鉄は、山内を中心として原料と燃料を継続的に手に入れられるとともに、“人”と“自然”とが共生する持続可能な産



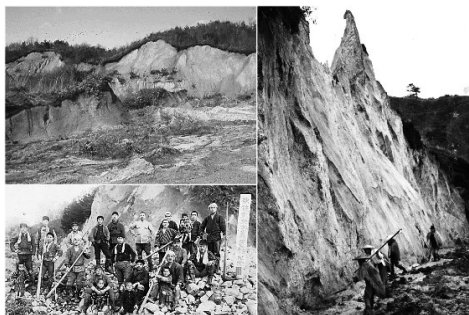
神秘的な炎を舞い上げる たたら製鉄



広く信仰を集める金屋子神社（総本社）



棚田に小山が点在する奥出雲の独特な景観



想像を絶する山々を切り崩した「鉄穴流し」



操業当時の姿が残る菅谷たたら山内

業であったと言えます。

たたら製鉄によりもたらされた文化・産業

奥出雲で生産された鉄は次から次へと牛馬や川舟によって安来などの港へ運ばれ、北前船交易の主要な荷として全国各地へ送り出されました。港と奥出雲を結ぶ街道は鉄輸送によって人の往来が増え、街道筋の宿場町や温泉は大いに賑わいました。港町・安来は、鉄の集積地として人々が交わる拠点となり、各地の船頭が唄う民謡などの影響を受けて「民謡安来節」が生まれ、ユニークな「どじょうすくい踊り」とともに全国に知られています。

また、鉄の交易によって多くの富とさまざまな文化が集まりました。製鉄業で財をなした鉄師たちは、収める品ごとに数多くの土蔵を建て、都で見られるような豪華な茶室や庭園を自邸に構えて「不味」と号した^{ふまい}松平治郷をはじめとする歴代松江藩主をもてなしました。労働者たちは、鉄師から聞いた京都の「祇園祭り」の様子を模して、太鼓を叩く稚児を乗せた山車が練り歩く^{おおろあたご}「大呂愛宕ばやし」を思いつき、ハレの日を演出して楽しみました。

一方、農村部では、鉄穴流しで大規模に切り崩した跡地にまず蕎麦^{そば}などの種を蒔いて土をつくり、その後、稲を植えて、広大な棚田をつくりあげました。このようにして生産された蕎麦^{そば}は幕府にも献上され、良質米は大阪に送られるほど高い評価を受けました。

たたら製鉄は、単に鉄をつくっただけでなく、地域産業の発展を支えながら、格調高い文化を育んでいったのです。

たたら製鉄が紡ぐ持続可能な社会

出雲地方は、スサノオのヤマタノオロチ退治神話の舞台でもあります。現在も伝承地が点在し、各地で舞われる神楽^{かみよ}が神代の世界を伝えています。この神話に登場するヤマタノオロチを、砂鉄採取の影響で氾濫する川になぞらえ、退治したオロチから取り出された剣を製鉄の象徴に、イナタヒメは砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立て、「たたら製鉄の歴史」と重ね合わせながら語り継がれてきました。

たたら製鉄は、産業としては100年ほど前に終焉を迎えましたが、その技術は今も絶えることなく世界で唯一この地で伝承されています。流通の拠点として賑わいを見せた港町は今や全国有数のハガネの産地へと発展し、たたら製鉄の技術を受け継ぐ高級特殊鋼「ヤスキハガネ」が現代の“ものづくり”を支えています。また、鉄穴流しにより拓かれた耕作地では全国に名高い「出雲そば」や^{にたまい}「仁多米」を育み、多くのファンを魅了しています。

今もなお、この地は先人がたたら製鉄千年の歩みの中で生み出した特徴豊かな地域の文化と産業、自然景観に満ち溢れ、終わることのない物語を紡ぎ続けています。



全国に知られる安来節とどじょうすくい踊り



不味公も愛でた鉄師の庭園で行われる茶会



鉄師が京都から持ち帰り 300 年続く伝統芸能



ヤマタノオロチ退治の神話を伝える神楽



今も残る 鉄師が暮らした街並み

ストーリーの構成文化財一覧表 (雲南市、安来市、奥出雲町)

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	すがや 菅谷たたら山内	国指定重要 有形民俗文化財	操業当時の姿が世界で唯一現存する「菅谷たたら山内」は、たたら製鉄によって隆盛を極めた往時を彷彿とさせる。映画「もののけ姫」の〈タタラ場〉のモチーフとなったことでも知られ、“本物”だけが持つ独特の空間と周囲の景観は、訪れる者を圧倒する。ここは、たたら製鉄に従事した職人やその家族たちの生活や息遣いを、時空を飛び越えて体感することができる稀有な場所である。	雲南市
2	かやのかんなばあと 萱ノ鉄穴場跡	未指定 史跡	「菅谷たたら山内」の経営者・田部家に残る古絵図（明治初年頃か）にも記される鉄穴場で、切羽（採掘場）、走り（水路）、選鉱施設のすべてが現存する。菅谷たたら山内と合わせて見学することで、原料砂鉄の採集から製鉄に至る一連の工程を理解することができる。	雲南市
3	たなべけ どぞうぐん よしだ 田部家 土蔵群 と 吉田 の街並み ・鉄の歴史博物館 ・大鍛冶屋跡	未指定 文化的景観	松江藩鉄師頭取・田部家のもとで「企業城下町」として栄えた吉田の街並みは、自然の地形を利用しながら機能的に作られている。土蔵群に代表される田部家本宅を中心とした有力者が住む本町通り、寺院が立ち並ぶ山側エリア、飲食、日用品店、小鍛冶屋などサービス機能を持つ川原町筋、吉田川を挟んだ反対側は大鍛冶場や職人の長屋がある鍛冶屋原。それぞれの異なるエリアが小路を通じて有機的に結びついており、今でも往時の面影を垣間見ることができる。	雲南市
4	すがやたたらせいてつようぐ 菅谷 鑪製鉄用具 141点	県指定有形 民俗文化財	「菅谷たたら」で用いられた製鉄用具。各操業工程の道具が残っており、たたら製鉄の作業を具体的に示す。道具の使用痕や傷を通して、当時の製鉄現場での熱気や職人たちの息遣いを感じることができる。「鉄の歴史博物館」で常時観覧可能。	雲南市
5	おおかじやどうぐ 大鍛冶屋道具 10点	市指定有形 民俗文化財	火箸やアテガネ（地金を鍛錬するときに使う台）など大鍛冶職人が使っていた道具。現在では失われた大鍛冶技術を理解するうえで貴重な資料群。「鉄の歴史博物館」で常時観覧可能。	雲南市
6	つきや かぐら 槻の屋神楽 おおはらしんしよくかぐら 大原神 職神楽	県指定 無形民俗文化財	当地方が舞台となるヤマタノオロチ退治神話では、「ヤマタノオロチ」は、砂鉄採取の影響でたびたび氾濫する「斐伊川（ひいかわ）」をイメージし、オロチの尾から顕出した「天叢雲剣（あめのむら	雲南市

	うしおさんのうじかぐら 海潮山王寺神楽		くものつるぎ)」はたたら製鉄によって生まれる日本刀を象徴し、「イナタヒメ」は砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立てられて伝えられる。これを現代に伝承する神楽の世界は、たたら製鉄が当地の生活・文化と切り離すことのできないものであったことを表している。	
	うしおじんだいかぐら 海潮神代神楽 ひのぼりかぐら 日登神楽 させかぐら 佐世神楽	市指定 無形民俗文化財		
7	りゅうず たき 龍頭が滝 やえだき 八重滝	県立自然公園 日本の滝百選	たたら製鉄と「水」との関わりは深い。たとえば、砂鉄採集のための鉄穴流しには大量の水を必要とし、鉄塊を細かく砕く錘を持ち上げ、炉へ風を送るには水車を動力源としていた。現在、景勝地として知られる両瀑布の近くには、鉦跡（八重滝鉦跡）や鍛冶屋跡（滝谷鍛冶屋跡）が存在し、自然環境を十分に利用した「たたら経営」が行われていたことをうかがわせる。	雲南市
8	かなやごじんじや 金屋子神社	県指定 有形文化財	たたら神様「金屋子神」を祀る金屋子神社の総本社。たたら製鉄盛行情の江戸時代後期には中国山地一帯に広範な信仰圏を築いた。金屋子神は現在も鉄の祖神として鉄産業に関わる人々の尊崇を集めている。	安来市
9	金屋子神社と にしひだ 西比田の町 ・市原たたら（未指定史跡）	未指定 文化的景観	のぎ 能義郡と仁多郡を結ぶ街道沿いに位置する西比田の町は、たたら製鉄の発展とともに金屋子神社参拝の拠点として賑わいを見せた。参道の起点に立つ石灯籠が往時を偲ばせる。また、この地の市原たたらは神社にちなんで金屋子たたらとも呼ばれ、江戸後期から大正末期まで操業された。	安来市
10	たまはがねせいぞう 玉鋼製造 (たたら吹き) 伝承	国選定 保存技術	1300年間にわたり連綿としてこの地の職人だけに継承される世界唯一の製鉄法。炎が燃え上がる様子は、金屋子神の存在を感じさせるほど神秘的であり、職人の卓越した技術により執り行われる作業は今日の先端技術でも説明できないほど緻密なものである。まさに、ものづくりの原点であり、世界に誇る日本の技である。	奥出雲町
11	たけざき 竹崎のカツラ	国指定 天然記念物	鉄の神様金屋子神が宿るとされるカツラの木は赤く芽吹き、その後、緑色、黄色へと葉の色が変化する。新芽が赤く染まるのは、たたら製鉄の火入れにかかる日数と同じ三日三晩だと言われる。赤く燃えるように天へ向かって伸びる新芽はたたら赤い炎をイメージさせ、製鉄のご神木として保護されてきた。我が国の自然崇拝の文化と、人と自然との共生の精神を垣間見ることができるたたら製鉄のシンボリック的存在である。	奥出雲町

1 2	奥出雲たたら製鉄 及び棚田の文化的景観	国選定重要 文化的景観	たたら製鉄に用いる砂鉄を採取した鉄穴 流しの跡地は、棚田として整備され今に 輝きを放つ。この棚田が、米どころの西 の横綱として「仁多米」を生み、多くの 食通をうならせている。先人が成し得た 文明と自然との共生というストーリーを 今日に伝える象徴である。	奥出雲町
1 3	とりかみもくたんせんこうじょうかく ろ 鳥上木炭銑工 場角炉	国選定 重要文化的景観 国登録 有形文化財	たたら製鉄技術を受け継いだ角炉が残さ れており、製鉄の近代化を物語る建造物。 ほぼ完全な形で保存されている角炉は、 たたら製鉄の近代化を知るうえで、欠く ことのできない遺産である。	奥出雲町
1 4	さくらいけ 櫻井家住宅	国選定 重要文化的景観 国指定 重要文化財	たたら製鉄で財をなした鉄師頭取の住ま い。贅を凝らした佇まいは、往時の松江 藩主・松平不昧公の御成の際の本陣宿を つとめ、以後藩主が六度も訪れたという。 戦国の世を潜り抜けて財を築いた櫻井家 の歴史と、たたら製鉄の繁栄ぶりを物語 る建造物である。	奥出雲町
1 5	いはらけ 絲原家住宅	国選定 重要文化的景観 国登録 有形文化財	たたら製鉄で財をなした鉄師頭取の住ま い。元はたたら製鉄の原料である砂鉄を 採取した場所を出雲流庭園として築庭し ている。贅を凝らした佇まいは、松江藩 主のほか国内外の文化人も多く訪れたと され、彼らによりもたらされた数々の文 物は、たたら製鉄の繁栄ぶりを物語る。	奥出雲町
1 6	おにのしたぶる 鬼舌振	国名勝及び 天然記念物	出雲国風土記に玉日媛命の伝承を残し、 かつて木炭を焼く鉄山林であった。鉄師 絲原家の招きで与謝野鉄幹・晶子夫妻な どの文人墨客が訪れるなど、たたら製鉄 と繋がりのある名勝地である。	奥出雲町
1 7	おんち 陰地たたら跡	国選定 重要文化的景観 県指定史跡	中世から近世にかけてのたたら製鉄技術 の変遷を理解する上で欠くことのできな い遺跡である。	奥出雲町
1 8	はいだに 羽内谷鉾山 かん な 鉄穴流し本場	国選定 重要文化的景観 町指定 有形民俗文化財	砂鉄採取をする鉄穴流しの最終工程の遺 構で、巧みに水流で比重選鉾する鉄穴流 しの技法を知ることのできる設備であ る。	奥出雲町
1 9	ぼくら 旧卜蔵氏庭園	国選定 重要文化的景観 町指定名勝	スサノオが降臨した船通山を仰ぎ見る庭 園。たたら製鉄で財を成した鉄師の佇ま いを物語るもので、庭園師重森三令も絶 賛した。神話とたたらを重ね合わせ、悠 久の時を感じさせる。	奥出雲町
2 0	原たたら (むらくも 叢雲たたら) 跡	国選定 重要文化的景観 町指定史跡	たたら山内の遺構がほぼ完全な形で残 る。昭和 52 年に、たたらを復活させた安 部由蔵村下が操業した鉬で、たたらの聖 地である。	奥出雲町
2 1	まきはら 槇原たたら角炉	国選定 重要文化的景観	角炉は、たたら製鉄から近代化を図った 我が国独特の技術を示す重要な遺構であ る。ほぼ完全な形に復元された近代化遺 産である。	奥出雲町

2 2	ぼくらしんでん ト蔵新田	未指定 名勝	享保 6 (1721) 年に奥出雲の鉄師ト蔵家から現在の安来市荒島町に分家したト蔵孫三郎は、日白地区をはじめとする各地で砂鉄採取の「鉄穴流し」の手法により水田を造成した。たたら製鉄の技術が現在の当地の農業を育んできたという歴史を体感できる。	安来市
2 3	たたら製鉄用具 250点	国指定重要 有形民俗文化財	製鉄炉に風を送る装置「天秤轡」をはじめ、砂鉄採取、築炉、製錬、選鋼など、たたら製鉄の作業を具体的に知ることのできる用具250点。身近な樹木を加工して作られており、その形状や重さなどに、先人の工夫と自然との共生を知ることができる。和鋼博物館で観覧可能。	安来市
2 4	日本刀 こばやしだとし こばやしりきお (小林貞俊・小林力夫)	県指定 無形文化財	「サムライの魂」と言われる日本刀の鍛錬を実演公開している刀匠。奥出雲の地でたたら製鉄により生み出された玉鋼は、同じく奥出雲の匠により日本刀へと姿を変える。職人から職人へと玉鋼（モノ）をつないで、一本の刀（逸品）をつくっていくシステムは、たたら吹きと併せて日本のものづくりの原点と言える。	奥出雲町
2 5	たたら絵巻 たまはがね 「玉鋼縁起」	市指定文化財	安来出身の画家松本 春々が昭和21年に制作した幅30cm、長さ55mに及ぶ、たたらの一大絵巻。たたら守護神「金屋子神」の降臨から始まり、神話や伝承の中の鉄文化、たたら歴史的変遷、作業や設備・道具、そして安来がたたら伝統を受け継ぎ近代に特殊鋼の生産拠点に成長する過程を、水墨淡彩の軽妙な筆使いで表現している。和鋼博物館のビデオモニターで観覧可能。	安来市
2 6	安来港と安来の 街並み ・旧雲伯鉄鋼合資会社 ・山常楼 (国登録有形文化財) ・並河家住宅 (県指定有形文化財)	未指定 文化的景観	江戸時代から明治時代にかけて、安来は周辺の山間部で生産された鉄を北陸や関西へと運ぶ鉄の積出港として栄えた。その後、明治後期には地元資本の会社がたたら製鉄の伝統技術を近代製鋼技術に発展させ、良質の鉄鋼を生産するようになった。安来の港と街並みは、商いの町から鉄鋼生産の町へと歩んできた「ハガネの町安来」の歴史を物語っている。	安来市
2 7	民謡安来節 やすぎぶし	市指定 無形文化財	安来節は鉄の積出港として栄えた安来で生まれた民謡。その歌詞には鉄の運搬の様子など鉄に関連した内容が随所に唄い込まれている。軽快な歌声は港町の賑わいに花を添えた。	安来市

28	飯梨川と赤江の新田 開発	未指定 文化的景観	安来市広瀬町から安来平野を経て中海へ注ぐ飯梨川。上流部の布部、山佐などでは江戸時代から「鉄穴流し」による砂鉄採取が行われた。その土砂は下流域の扇状地に何度も洪水をもたらし、長い年月をかけて安来平野を形成してきた。とりわけ赤江地区ではその土砂を利用して大規模に新田開発が行われた。たたら製鉄は現代の我々にも恵みを与えてくれている。	安来市
29	大呂愛宕ばやし	未指定 無形民俗文化財	鉄師ト蔵家がもたらした、300年の歴史を持つ祭り。労働者とたたら経営者との結びつきと、たたら製鉄と地域文化のつながりを理解できる伝統芸能である。	奥出雲町
30	竹崎十七夜	未指定 無形民俗文化財	鉄師ト蔵家がもたらした祭り。火伏の神である秋葉大権現を祀る伝統芸能。火を操るたたら製鉄と地域文化及び信仰を知るうえで重要な行事である。	奥出雲町

※複数ページにわたっても可

構成文化財の写真一覧

①菅谷たたら山内



(撮影：繁田 諭)

②萱ノ鉄穴場跡



③田部家土蔵群と吉田の街並み



④菅谷^{すがや}鑪製鉄用具、⑤大鍛冶屋道具



⑥槻^{つき}の屋神楽、大原^{おおはら}神職神楽、海潮^{うしお}山王寺神楽、 海潮^{うしお}神代神楽、日登^{ひのぼり}神楽、佐世^{させ}神楽



⑦龍頭^{りゅううず}が滝、八重^{やえ}滝



⑧ ^{かなやご}金屋子神社



⑪ ^{たけざき}竹崎のカツラ



⑨ ^{にしひだ}金屋子神社と西比田の町



⑫ 奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観



⑩ ^{たまはがね}玉鋼製造 (たたら吹き) 伝承



⑬ ^{とりかみもくたんせんこうじょうかくろ}鳥上木炭銚工場角炉



⑭^{きくらいけ}櫻井家住宅



⑰^{おんち}陰地たたら跡



⑮絲原家住宅



⑱^{はないだにこうざん}羽内谷鉾山 ^{かんななが}鉄穴流し本場



⑯^{おにのしたぶろ}鬼舌振



⑲^{ぼくら}旧卜藏氏庭園



⑳^{はら}原たたら（^{むらくも}叢雲たたら）跡



㉓たたら製鉄用具250点



㉑^{まきはら}槇原たたら^{かくろ}角炉



㉔日本刀（^{こばやしきだとし}小林貞俊・^{こばやしりきお}小林力夫）



㉒^{ぼくら}卜蔵新田



㉕たたら絵巻「^{たまはがねえんぎ}玉鋼縁起」



写真は「たたらの実況」

やすぎ やすぎ
②⑥安来港と安来の街並み



おおろあたご
②⑨大呂愛宕ばやし



やすぎふし
②⑦民謡安来節



たけさきじゅうしちや
③⑩竹崎十七夜



いいなし あかえ
②⑧飯梨川と赤江の新田開発

